

埼玉県立越ヶ谷高等学校 定時制の課程 入学に当たったのお祝いの言葉

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本県においては、令和二年三月二日から学年末休業及び春季休業に至るまで、特別支援学校を除くすべての学校において臨時休業措置がとられてまいりました。

四月三日時点で、県立高等学校においては、臨時休業が四月十二日まで延長され、四月十三日の再開を目指すこととなっておりますが、四月六日時点で、国において、緊急事態宣言の発令について検討が進められることになり、早ければ、本日にも緊急事態宣言が発令されることでもあります。

このような状況を踏まえ、本校では、緊急事態宣言の発令前ではありますが、入学許可候補者及び保護者の皆さんの安全を第一に考え、誠に断腸の思いではありますが、本日予定していた入学式を中止とさせて頂いていただきました。

入学式への参加を予定されていた入学許可候補者、保護者、来賓の皆さんにおかれましては、まずもってそのことを御理解くださいますとともに、本日式典を開催できなかったこと、心からお詫び申し上げます。

このような状況の中ではありますが、本日ここに本校定時制の課程の入学許可候補者となっていた四十二名の皆さんの本校定時制の課程への入学を許可いたします。

新入生の皆さん、本校定時制の課程への入学、誠におめでとございます。

教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

皆さんは、高校入試という大きな試練を乗り越え、晴れて本日、本校の生徒となることができました。

この入学時の初心の気持ちを忘れず、これから始まる高校生活一日一日を是非大事に過ごしてください。

さて、社会は今、先ほど申し上げた新型コロナウイルスの感染拡大防止が何よりも優先され、皆さんにとって大変貴重なこの高校入学期にかけての期間が、学校行事等の中止・延期・縮減だったり、不要不急の外出自粛だったり、不自由な生活を強いられ、大変寂しく思っている人も多いかと思えます。

これまで、当たり前のように行われていた日々の出来事は、決して当たり前のことではなく、できること自体が奇跡なんだと改めて感じています。

これからは、何事も無事予定どおり実施できることに感謝しながら取り組んでまいりたいと思っています。

皆さんには、このような思いがけない状況をマイナスと捉えるのではなく、減多にあることではない、逆に思い出に残る高校の入学だと、是非プラスに捉えてほしいと思います。

よく言われる「ピンチはチャンス」であります。

これからの始まる皆さんの高校生活においても、苦しいこと、辛いこと等のピンチが沢山待っていることと思います。

そんな時、それをマイナスとして捉えて落胆するのではなく、改善のチャンスとしてプラスに捉えて次へのステップに繋げてほしいのです。

そうすることで人は、ピンチをチャンスに変え、一回り大きく成長できるものであります。

ピンチを迎えたら、是非今のこの辛い時期のことを思い出し、ピンチを乗り越えていってください。

先程申し上げましたが、四月三日時点では、県立高等学校においては、四月十三日の再開を目指すこととなっておりますが、緊急事態宣言の発令等、今後の状況次第によっては、変更となる可能性があります。

学校再開及び登校日等の今後の対応については、本校ホームページで御案内いたしますので、そちらを御確認ください。

なお、ホームページは変更が決定次第、その都度更新いたしますので、必ず直前の情報を御確認ください。

近い将来、平和で安全な日常生活を取り戻せる日が必ず来ると信じ、皆さんの登校を心待ちにしています。

結びになりますが、保護者の皆様、本日は、お子様の御入学、誠におめでとうございます。

高校生として第一歩を踏み出した我が子を御覧になり、感慨も一入のことと、心からお喜びを申し上げます。

言うまでもありませんが、お子様の成長のためには、保護者と教員の連携・協力が不可欠であります。

保護者と教員が、それぞれ違うことを言っていたら、子どもはどうしたらいいかわからず、より安易な方へと流れ、努力をしなくなるばかりでなく、保護者または教員への信頼も失います。

私は、校長として、本校の職員を心から信頼してまいります。

保護者の皆様も、至らぬ点もあるうかと思いますが、是非本校職員を御信頼いただき、御理解・御協力をお願いいたします。

新入生の皆さんの本校における四年間が充実したものとなり、立派に成長した姿でこの学び舎を巣立っていくことを祈念し、新入生の本校への入学に当たったお祝いの言葉といたします。

令和二年四月七日

埼玉県立越ヶ谷高等学校長

梶尾 勝則